



まとめ

- 基本的に倒置文の後置要素は、前部要素を発話した後に文作成のプランが十分でないことに気がつき、補足情報を補う方策である。

→この方策は、認知テンポが遅い日本語の基本方策に逆行する



まとめ

- 倒置文の後置要素は、
 - ①新情報(ただし前部要素でまず挙げられるべきである焦点要素は生起不可能である。)
 - ②旧情報であるが、前部要素のみでは他の可能性もある場合。
 - ③前部要素がゼロ代名詞であった場合、強調が十分でなかったことに気がついた場合。
- ③の効果を狙って倒置文が文法化され、はじめから倒置文をプランすることが可能になった。